

# SICかわらばん

SIC、入居企業、地域企業 を結ぶ情報紙 — 地域版 —

発行  
No.

# 37

発行日：2015年7月15日(水)

地域企業紹介 37

## かながわ経済新聞



## 「リスクもいとわず、 初心を貫いて」

相模原市を中心に神奈川県全域をカバーする地域経済専門紙「かながわ経済新聞」を発行する千葉龍太代表に会ってきました。かながわ経済新聞は月刊紙のスタイルで、毎号、地域の中小企業の中小企業情報が豊富に載っています。

千葉さんは中学の頃から「新聞記者になりたい」という思いがあり、大学卒業後、CSテレビ局「朝日ニュースター」報道専門チャンネルを経て、日刊工業新聞に入社する。最初の配属は日刊工業新聞社相模支局。小さな頃から文章を書くのは好きだったが、新聞記事はまったくの別物で当時の支局長にはかなり鍛えられたようだ。千葉さんが書いた記事は本社デスクに送る前に何度も何度も赤スミを入れられたそうで、支局長からは「原稿が書けるようになるためには、ノイローゼになるくらいやらなきゃだめだ」と言われたそうだ。

相模支局で忘れられないのが相模原や厚木、大和などで活躍する中小企業の経営者との出会い。若造の自分をいろいろな会社の社長が人生のこと、会社のこと、社会のこといろいろなことを教えてくれ、助けてくれたと千葉さんは当時を懐かしむ。記者人生のスタートを切った相模の地は千葉さんにとって思い出深い土地なのだ。2年間の支局勤務を経て、2003年に本社勤務になり最初に担当したのは「環境省」。京都議定書やクールビズで活躍していた小池百合子大臣にもたびたび取材したそうだ。次は「紙・パルプ」の担当。王子製紙が北越製紙に敵対的買収を仕掛けていた頃で千葉さんは「王子製紙 買収断念！」を示唆する記事もいち早くものにした。この事件は日本初の大企業同士による敵対的買収だったので注目され、大きな話題になったことを思い出す。東京近郊にある役員の自宅を毎日のように夜討ち朝駆けしたそうで厳しい現場だったが記者魂に燃えた日々だったと千葉さんは言う。それから日刊工業新聞の花形部門である「電機」を担当する。ここでも1面トップを数多く書いてきた。でも、ふと疑問を持ったそうだ。

(2面につづく)

かながわ経済新聞  
代表 千葉 龍太 (ちば りょうた)  
事業内容：「かながわ経済新聞」の発行、  
相模原商工会議所「工業部会通信」の編集など。

書いている記事は大企業同士の敵対的買収だったり、国内工場の海外移転、事業部門の撤退と売却といった大手企業を巡る後ろ向きなものばかり。中小企業の社長達と語り、この企業を世に知らしめたいと頑張っていた相模支局時代を思い出したのだろう。

そんな思いもあり、地元の神奈川新聞へ転職する。神奈川新聞社でのスタートは経済部ではなく記事を取りまとめ紙面をレイアウトする整理部。ここで紙面づくりを一から叩き込まれる。この経験が後に新聞の発行者となる千葉さんを大きく助けることになる。まさに「人間到る処青山あり」である。1年後に経済部に移り、神奈川新聞の経済面を引っ張っていく。経済部時代には日産自動車、横浜財界などを担当。記憶に新しい「横浜ベイスターズの身売り騒動」や「A1」投資顧問による詐欺事件なども精力的に取材した。

ここで終わらないのが千葉さんのすごいところで35才で神奈川新聞社を退社し、相模原市に活動の拠点を移し、相模経済新聞を経て、2014年に若手経営者の集まりである相模原市青年工業経営研究会の仲間にも助けられ「かながわ経済新聞」

の創刊に漕ぎ着ける。スタート時の発行部数は300部だったそうだ。今は1万部に迫る勢いを見せる。

この新聞は中小企業の持っている優れた技術、サービス、ノウハウをみんなに知ってもらう媒体を目指している。一つの記事で企業を生かすこともあればダメにすることもある。この新聞を通して中小企業の経営者に“自信”と“やる気”と“明るさ”を取り戻してもらいたいと願っているし、「そうか、こうすればやれるのか」といった経営のヒントにもしてもらいたい。近い将来には部数を3万部に伸ばし、神奈川県県央地域の産業や経済を語る時欠かすことのできない存在になりたいと。

米国の高名なベンチャーキャピタリストが成功するアントレプレナーの資質を「スタミナ、適度な貧乏、根無し草性、仲間、無知」の五つあげている。チョッと過激だが的を得ていると思う。「無知」とは起業の苦難を深く認識していないことを指す。どんな苦難が待ち構えているか知っていたら誰も起業しようとしなからだ。リスクもいとわず、初心を貫く真のアントレプレナー千葉さんの今後に期待したい。ガンバレ「かながわ経済新聞」。千葉さんもっともっと弾けてください。

## 「有形・無形を問わず、コンセプトアイデアから」

### 株式会社プロスリンク

学生時代から目的に向かって試行錯誤しながら到達するまでの過程が好きだったと言う株式会社プロスリンクの末野社長をご紹介します。

分野的には工学系に興味を持っていましたが、ガンブラ(機動戦士ガンダムのプラモデル)がブレイクし始めると、デザインに興味を持ち始めました。企業の研究開発を支援する試作総合メーカー在籍中の17年間では、メーカーと連携した光造形を用いた加工の普及と材質の改善や有機的な意匠の加工方法の確立、3カ所の事業所立ち上げ、また、顧客との関係性の強化など多岐にわたる事業に携わりました。

その経験を元に、大田区並に色々な事が出来る高い技術を持つ企業が多い相模原で起業しました。事業としては、家電、自動車、アミューズメント、広告、プロモーション等の各業界において、新製品の開発に関する企画から設計、モデリング、部品製作を行っています。開発と平行して三次元データを利



用し、広報活動のサポートもしています。社内LANやWebサイトの構築、ノベルティグッズの作成も行っています。とりわけ、フィギアなどの玩具のデザイン企画・設計を得意としています。最近では、輸出向けにデザインされたOA機器事業に注力しています。

紙に書いた平面の絵から実際の立体的なモノにすることは元より、有形・無形を問わず企画を起す以前のコンセプトアイデアの提案からサポートしています。設備を持たないことで環境に縛られず

身軽さを追求しながら多くの企業と連携し、知識を蓄え、企画力と技術力を磨き続けるからこそお客様に対してスピーディに、そして適した提案が出来ます。

そして最後に、地域に根付き、地域ネットワークの有用性を実証し地域の活性化に貢献出来る企業を目指しています。

株式会社プロスリンク  
SIC-3 3107号室  
E-mail : sueno@prothlink.co.jp

# Hi friends! - Globalization in SIC - ようこそ!世界の国からSICへ

グローバル化の波は世界中に及んでいます。日本企業にあっても海外進出はもちろんのこと社内公用語を英語にしたり、外国人を採用することも珍しくありません。SICに入居する企業にも外国の方々がたくさん働いています。このコーナーでは6回にわたり「Hi friends! Globalization in SIC」と題し、訪日されSICで活躍する方々を紹介します。

from TAIWAN

楊 嘉宇 YANG CHIAYU サンマルコ株式会社



## 楊さんの歴史を教えてください。

台湾、台北市で生まれ、市内の私立大同高校を卒業しました。2004年6月に来日し東中野にあった東京日本語文化学校で日本語を勉強し、亜細亜大学経営学部に入學しました。卒業後は帰国して1年間の兵役につきました。

その後、再び来日し、亜細亜大学大学院アジア・国際経営戦略研究科に入學しました。研究テーマは「台湾の大手流通企業の戦略的アライアンス」でサンヨー食品やファミリーマートと提携し成功した台湾の頂新グループについて研究しました。

## 日本に留学するきっかけは?

小さなころ「ドラゴンボール」が大好きで、日本に興味を持ちました。小学校3年生の時に家族で九州を旅行しましたが日本の街並みがとても綺麗で清潔だったことに衝撃を受けました。現在の台北市内は安全で清潔な街ですがその当時の落差は凄かったです。

そんなことで日本が好きになり、高校3年生の時、両親に日本への留学を願いました。日本での大学進学は生活費も含めると費用が4倍くらいかかりますが両親は快く送り出してくれました。

## 日本と台湾の良いところや違いを聞かせてください。

日本の良いところはサービスの質の高さですね。食事をしても買い物でも店員さんの対応は世界一だと思います。また、みんなが親切なことです。台湾から来たと言うと親切に面倒をみてくれます。日本はアジアの先進国なので米国や欧州の人のようにアジアの人を馬鹿にしていると思っていましたが、まったく違いました。気候も台湾に比べるとすごしやすいです。台湾の夏は湿度が高く立っているだけで汗が滴りますから。

日本人は考えや感じていることをはっきり表現しないですね。お客様も友人も。良い点でもあり、やりにくい点でもあります。

台湾の良いところは便利なところです。病院も夜遅くまでやっているし夜市が盛んですから飲んだり食べたりするのも深夜までOKです。

## 好きな食べ物と趣味はなんですか?

日本なら日本そば、牛丼が好きです。台湾なら臭豆腐。軍隊を退役して最初に食べたいと思ったのが牛丼でした。(笑)趣味はカメラでニコソ派です。

## サンマルコ社入社の際の経緯を教えてください。

日本のローターリークラブを通じて、サンマルコが留学生を求めていることを知りました。日本の中堅企業の就職試験も受けましたが、ほとんどが中国進出のための要員だったのでチョッと迷ってしまいました。サンマルコは台湾進出を計画しているためのスタッフを求めています。人生の1/4は日本で過ごしてきたので台湾と日本に関わる仕事がしたいと考えるようになっていましたからサンマルコに就職することに決めました。

## サンマルコ社ではどんな仕事をしていますか?

2014年4月に入社し、最初の半年はベテラン社員に同行して遮熱・飛散防止用窓フィルムの営業の実際をOJTで学びました。その後は商品全般やフィルム施工を工事現場に入って勉強しています。そして、サンマルコは来年には台湾進出を予定していますから台湾ビジネスのプラン作成などの準備も進めています。同時に夏は遮熱用フィルム営業の繁忙期ですから営業のサポートもしています。

サンマルコはとても雰囲気の良い会社で、社長も社員のみなさんも親切にしてくれるのでとても働きやすいです。

## 将来の夢は?

当面の目標は遮熱・飛散防止用窓フィルムのビジネスを台湾で成功させてこの業界で台湾一番になりたいですね。頑張ればきっと実現できると思います。

サンマルコ株式会社

代表取締役 丸子 勝基

社員:20名 創業:1998年 年商:6.8億円(2013年)

業務:スリーエム ジャパン株式会社の施工特約店として、  
<スリーエム>窓用フィルム及び内装材の施工及び販売

## 居酒屋「料」

いろいろな美味しいものが食べられる小さな居酒屋です。今回はSICが事務局をしている南西フォーラムの委員さん達とSICスタッフ総勢6名で行って来ました。この日のお料理は、最初は鯨、鯛、マグロのお刺身盛り合わせ。鯨のお刺身は絶品でした。次がマグロのほほ肉とアジのフライ。イサキと野菜のグリル。Pは二種類のピザ。どれも美味しくお腹一杯になりました。この店を一人で切盛りするシェフはフレンチ、高級焼き肉店、居酒屋と修業してきたらしい。仲間と楽しくやるのにもってこいのお店です。

相模原市中央区中央1-1-8 TEL. 042-756-7294 営業時間 18:00~22:00 ランチ営業(水~土) 11:30~14:00 定休日 月曜日 予約できます。



iPS細胞が拓く未来と  
モノづくり企業

今年度の南西フォーラムは「イノベーション」をテーマとして、首都圏南西地域の中小企業が最新技術分野へ参入する可能性を探っていきます。今回は第1弾として、iPS細胞の事業化へ向けた最新動向及び関連機器ビジネスへの参入について、(株)iPSポータルのプロダクト開発事業部長である早乙女氏並びにiPS関連産業への参入支援を行う「iPSビジネス促進拠点」の事務局長である山戸氏よりお話しを伺います。

内容 「iPS細胞関連機器ビジネス参入のポイントと参入事例」  
「iPS細胞の最新動向と創薬開発及び再生医療の今後」  
開催日時 平成27年7月24日(金)16時00分～20時00分(受付15:30～)  
会場 サン・エールさがみはら 2F ホール  
募集人数 150名(申し込み順) 入場無料



**SIC カイゼン・スクール**  
—トヨタ式カイゼンを導入するために—  
現場におけるカイゼン活動を知り尽くし、実践してきたカイゼン・マイスターによる『SICカイゼン・スクール』が今年も始まります。

講師：株式会社カイゼン・マイスター  
会期：個別現場診断・課題ヒアリング(7月中旬より順次訪問)  
平成27年9月5日(土)～11月21日(土) 7回  
※「自動車メーカーが実践するカイゼン活動」を実際の現場で学ぶ実習も予定しています。  
会場：SIC-2大会議室・サン・エールさがみはら  
対象者：製造業等の現場リーダー層の方など

## SICからのお知らせ

平成27年6月12日、SIC第16回定時株主総会において、中嶋隆が退任し、橋元雅敏(はしもとまさとし)が代表取締役役に就任いたしました。どうぞ、よろしくお願いたします。



## 2015.7 SIC EVENT CALENDER イベントカレンダー

7月16日(木) SICミニセミナー The HINT 23【販路】  
7月22日(水) 第9回創・蓄・省エネフォーラム MIRAI試乗会、成果品展示  
7月24日(金) iPS細胞が拓く未来とモノづくり企業 (第32回 南西フォーラム)  
8月14日(金)～16日(日) 子どもアントレプレナー体験キャンプ  
9月5日(土) SICカイゼン・スクール開講

knock! knock!  
入居企業を募集してます。

## SIC空室情報 (2015年7月6日 現在)

部屋	空室数	資料/月額 (共益費・消費税別)
SIC-1	空室はありません。	-
SIC-2	オフィス(50.2㎡) 8月から入居頂けます。	2 149,600円
SIC-3	空室はありません	-

The HINT 23 SICミニセミナー  
～ ビジネスチャンスを生み出す 販路 (初級編) 展示会出展の極意! ～

展示会に出展するとき、「何をどうやって準備すればよいのか…」と分からなくなってしまったり、「高額な経費を使って、もし失敗でもしたら…」と不安になることもあるかと思います。

今回のセミナーでは、出展効果を高めるポイント、ブースプラン、事前の準備、会期中の運営など、出展担当者の不安を取り除き、出展を成功させ、ビジネスチャンスを生み出すための具体的なノウハウをこれまでの実経験を踏まえて提供いたします。



講師：ワンプロモーション株式会社 代表 榎間 一緒 氏  
日時：平成27年7月16日(木)17:30-19:00

※終了後 希望者に個別相談会を実施  
場所：SIC-2 大会議室(A) 募集人数：20名(社)(先着順) 無料

第9回創・蓄・省エネ フォーラム  
『水素社会の幕開け』

日時：平成27年7月22日(水) 13:30-18:00  
場所：サン・エールさがみはら 2F ホール  
参加費：200名(社)(先着順) 参加費：無料

神奈川県との協力のもと平成24年度からエネルギー及び環境関連産業の更なる振興を図る目的で「創エネ・蓄エネ・省エネに関わるフォーラム」を開催して参りました。今回は、国、県、燃料電池自動車、エネファームシステムメーカー及び様々な用途展開を進めている燃料電池システム開発メーカーの方々をお招きし、『水素社会の幕開け』と題してご講演いただきます。また、同時開催として燃料電池自動車『MIRAI』運転試乗会(要事前申込み)及び成果品展示会を開催いたします。

講師：経済産業省 資源エネルギー庁・神奈川県 産業労働局 エネルギー部  
・日本フィルコン株式会社・パナソニック株式会社・トヨタ自動車株式会社  
<イベントプログラム>

13:30～16:30 燃料電池自動車MIRAI試乗会(神奈川県 所有車)  
13:30～16:30 燃料電池システム開発メーカーなどの成果品展示

## &lt;&lt;燃料電池自動車『MIRAI』運転試乗会&gt;&gt;

場所：株式会社さがみはら産業創造センター SIC-1 駐車場  
定員：運転試乗希望者25名 同乗希望者50名  
定員になり次第受け付けを終了いたします。

## ■参加申込み期限：

フォーラム7月17日(金) / 試乗会7月14日(火) 17時  
お申し込み：ホームページからお申し込み頂けます。

詳しくは、SICホームページをご覧ください。

<http://www.sic-sagamihara.jp>

## 編集後記

今号から、「Hi friends! -Globalization in SIC-」の連載を開始しました。SICの入居企業様で仕事をする世界のスタッフの方々をご紹介します。毎号、楽しみにして頂けたらと思います。



(株)さがみはら産業創造センター(SIC)  
〒252-0131 相模原市緑区西橋本5-4-21  
電話：042-770-9119 FAX：042-770-9077  
E-mail: koho@sic-sagamihara.jp

ご意見・ご感想を  
お待ちしております。

ウェブサイト <http://www.sic-sagamihara.jp/>